

トラフグ調査

太田 洋志・山田 秀樹・伊藤 毅史・吉田 幸史

平成17年より実施されてきた九州・山口北西海域トラフグ資源回復計画が終了したが、同計画で実施されていた措置は平成24年度から新たな枠組みである広域資源管理方針に基づき継続して実施されている。この方針のもと、トラフグの放流効果等を把握するために山口県、福岡県、長崎県、熊本県と連携して標識放流および追跡調査を実施した。

方 法

1 放流

佐賀県における種苗放流の概要を表1に示す。放流種苗は、(株)長崎県漁業公社が生産した45.8千尾を用い、全個体に内部標識として仔魚孵化時に1度耳石ALC染色を施すとともに、10千尾に外部標識として左胸鰭をカットした。放流は、2023年7月7日に唐津市鎮西町馬渡島地先で2千尾、2023年7月12日に杵島郡白石町新有明漁港で43.8千尾行い、放流時の平均全長は70mmであった。(図1)。

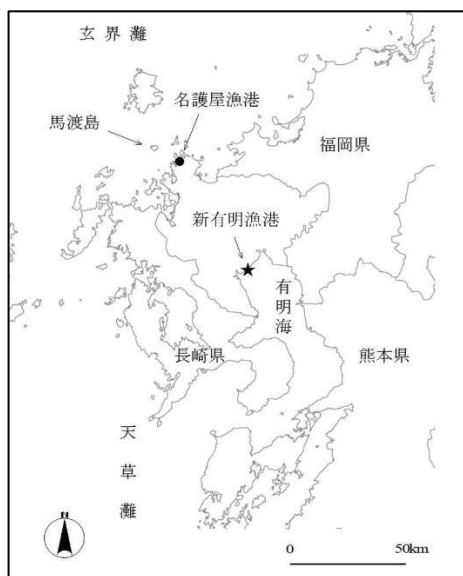


図1 実施地点図

2 追跡調査

(1) 沖合延縄調査

調査は、馬渡島の延縄漁船を対象に実施し、漁獲されたトラフグの全外部標識個体を購入して、精密測定および耳石ALC染色の観察による放流群判定を行った。

(2) 市場調査

佐賀玄海漁協魚市場において、月1回程度の頻度で外部標識個体の確認を行った。

結 果

1 沖合延縄調査

外部標識個体は、10月から1月にかけて13尾が漁獲され、放流群を判定した結果、6尾が長崎・佐賀連合放流群、5尾が長崎放流群、2尾が大分・愛媛連合放流群であった(表2)。

2 市場調査

市場調査において外部標識個体は確認されなかった。

表1 佐賀県における種苗放流の概要

放流年月日	場所	平均全長(mm)	尾数	内部標識	外部標識
2023/7/7	馬渡島地先	70	2,000	ALC染色(全個体)	左胸鰭カット(10,000尾)
2023/7/12	新有明漁港	70	43,800	ALC染色(全個体)	なし

図2 外部標識個体の精密測定および耳石ALC染色の観察による放流群判定結果

調査日	全長 (mm)	体長 (mm)	体重 (g)	生殖腺重量 (g)	雌雄	鼻孔形状	外部標識 (胸鰭)	外部標識 (有機酸)	放流群判定
2023/10/2	490	415	1986.9	20.0	オス	正常	左カット	無し	長崎・佐賀
2023/10/2	465	392	1621.8	15.9	メス	異常	左カット	無し	長崎・佐賀
2023/10/2	508	423	2176.5	40.0	メス	正常	右カット	無し	長崎
2023/10/2	452	386	1581.7	9.9	メス	正常	右カット	無し	大分・愛媛
2023/10/3	511	426	2762.1	50.4	メス	正常	右カット	無し	長崎
2023/10/18	570	479	3295.3	64.2	メス	正常	左カット	無し	長崎
2023/11/20	410	340	1178.4	36.0	オス	正常	左カット	無し	長崎・佐賀
2023/11/29	415	335	1047.7	5.9	メス	正常	左カット	無し	長崎・佐賀
2023/12/4	425	355	1178.2	5.9	メス	正常	左カット	無し	長崎・佐賀
2023/12/6	470	385	1793.1	172.5	オス	正常	右カット	無し	長崎
2023/12/27	495	415	1804.0	62.0	メス	異常	左カット	無し	長崎・佐賀
2024/1/15	455	375	1276.2	4.2	オス	正常	右カット	無し	長崎
2024/1/16	495	415	2023.3	99.6	メス	正常	右カット	無し	大分・愛媛